

【2025 年度/専門科目領域/専門科目群/リハビリテーション学科 作業療法学コース/作業療学科】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
作業療法演習Ⅱ-1		必修	1	3	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
小沢 健一 他	C305	k-rozawa	火曜日 12:00~13:00		
授業の目的・概要	作業療法演習Ⅱ-1では、前年度までに習得した専門知識の定着と知識の体系的理解ができ、それを模擬事例に生かし、作業療法における評価、統合と解釈、焦点化、目標設定までの習熟を目的とする。これにより、作業療法治療の構造をより理解することが可能になる。授業は原則、面接授業で実施する				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> その他 ( )				
学習上の助言	本科目では2年次までに学習した臨床医学系の知識を復習し、体系的に理解しておくこと。実際場面を想定し、自分で考え、行動できるようにしておくこと。不明なことは積極的に教員に質問をおこない、その都度明確していくことが必要である。				
教科書	標準作業療法学 作業療法臨床実習とケーススタディ 第3版 / 編：濱口 豊太：医学書院 / 2020 ICF 国際生活機能分類—国際障害分類改訂版— 障害者福祉研究会編集 中央法規 【2冊指定】				
参考書	特になし				
外部教材	特になし				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	各疾患について、体系的に理解し、説明できる。			RH (2) ~ (4)	
②	身体・精神障害の事例に関して評価計画が立案できる。			RH (2) ~ (4)	
③	身体・精神障害の事例に関して情報・評価が吟味できる。			RH (2) ~ (4)	
④	身体・精神障害の事例に関して、ICFを用いて統合と解釈・焦点化ができる。			RH (2) ~ (4)	
⑤	身体・精神障害の事例に関して、適切な目標の設定ができる。			RH (2) ~ (4)	
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等		授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)	
1	オリエンテーション 今後の学習の仕方 確認試験	[担当] 小沢	講義・演習 小テスト	事後：前期の学習計画の立案	1
2	作業療法の評価と実施計画	[担当] 小沢	講義・演習	事前に教科書 p1-36 の予習をする。	2
3	事例の書き方	[担当] 小沢	講義・演習	事前に教科書 p37-46 の予習をする。	2
4	ケーススタディ	[担当] 小沢	講義・演習	事前に教科書 p47-58 の予習をする。	2
5	事例基盤型学習：一般情報の整理	[担当] 全員	各教員について演習	事前：事例の評価計画の立案 事後：情報と評価結果の吟味	3
6	事例基盤型学習：医学的情報の整理	[担当] 全員	各教員について演習	事前：事例の評価計画の立案 事後：情報と評価結果の吟味	2
7	事例基盤型学習：疾患の理解と評価計画の立案	[担当] 全員	各教員について演習	事前：情報と評価結果の吟味 事後：情報と評価結果の吟味	2
8	事例基盤型学習：情報・評価結果の吟味と解釈	[担当] 全員	各教員について演習	事前：情報と評価結果の吟味 事後：情報と評価結果の吟味	2
9	事例基盤型学習：ICFでの統合と解釈、目標設定	[担当] 全員	各教員について演習	事前：ICFの分類と図化 事後：ICFの解釈	2
10	事例基盤型学習：一般情報の整理	[担当] 全員	各教員について演習	事前：事例の評価計画の立案 事後：情報と評価結果の吟味	3
11	事例基盤型学習：医学的情報の整理	[担当] 全員	各教員について演習	事前：事例の評価計画の立案 事後：情報と評価結果の吟味	2
12	事例基盤型学習：疾患の理解と評価計画の立案	[担当] 全員	各教員について演習	事前：情報と評価結果の吟味 事後：情報と評価結果の吟味	2
13	事例基盤型学習：情報・評価結果の吟味と解釈	[担当] 全員	各教員について演習	事前：情報と評価結果の吟味 事後：情報と評価結果の吟味	2
14	事例基盤型学習：ICFでの統合と解釈、目標設定	[担当] 全員	各教員について演習	事前：ICFの分類と図化 事後：ICFの解釈	2

【2025 年度/専門科目領域/専門科目群/リハビリテーション学科 作業療法学コース/作業療法学科】

15	臨床的基礎知識の演習	[担当] 小沢	講義・演習	事前：疾患の復習 事後：学習資料の復習	2
試	定期試験				

達成度評価							
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		40	60	0	0	0	100
総合 力 指 標	知識・技術力	30	10	0	0	0	40
	思考・推論・創造する力	10	20	0	0	0	30
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	10	0	0	0	10
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	10	0	0	0	10
	問題を発見・解決する力	0	10	0	0	0	10

評価のポイント			評価の実施方法と注意点	フィードバックの方法
評価方法	行動目標			
試験	①	✓	確認試験：解剖・生理・運動学に関する内容を5択にて問う。(10%) 期末試験：臨床医学の知識、作業療法評価の習熟度を試験形式で問う。(30%)	試験後に実施。
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
レポート	①		模擬事例について、作業療法評価の過程をレポートにまとめる。 レポートをまとめる過程やレポートの内容をルーブリックで評価し、知的スキルの習熟度等について問う。(60%)	レポート提出後に各担当者に より実施する。
	②	✓		
	③	✓		
	④	✓		
	⑤	✓		
	⑥			
成果発表	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
ポートフォリオ	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
その他	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			

備 考

他 担 当 教 員	榎田 哲弥、浅野 克俊、小川 麻里子、渡辺 俊太郎、向山 秀、加藤 智也（非常勤講師）
教員の実務経験	本科目の担当教員は5年以上の臨床業務経験がある。
実践的授業の内容	配布資料と併せて臨床における治療で得た知見に基づき作業療法に必要な基本的実技・知識を教授する。
そ の 他	<b>授業形態</b> ：この科目は登校による面接授業で実施する。大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を遵守すること。問題がある場合は面接授業の参加を認めない。 <b>模擬事例</b> は3~4人でグループを作り、各教員について協業して事例検討をする。 <b>履修に関して</b> ：この科目の単位修得が作業療法演習Ⅱ-2の履修要件である。